

式 辞 「ばらばらで一緒」

温かな陽射しが日ごとにその輝きを増し、ここ美香保の街にもうらかな春の訪れが感じられる今日、美香保中学校に入学する73名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。私たち教職員、そして2・3年生の在校生一同、心から皆さんの入学を歓迎いたします。

また、本日ここに、PTA会長様をはじめ、学校評議員、地域や町内会の皆様、校区の小学校である、美香保小学校、北光小学校の校長先生など多くの御来賓の皆様、並びに保護者の皆様の御臨席を賜り、札幌市立美香保中学校第76回入学式を迎えることができますことを心より感謝し、謹んでお礼申し上げます。

ここから、見渡しますと、凛と背筋を伸ばし、緊張しながらも真剣な眼差しで私の話を聞いてくれている新入生の皆さんの姿がよく分かります。どのような思いで今日という日を迎えましたか。今、どのような思いでいますか。新たな決意を胸に秘めていますか。不安はありませんか。皆さん一人一人の心の声を聴かせて欲しいです。それは、今、この場ではかないませんが、皆さんに、たくさん願うことのうちの三つをお話しさせていただきます。

まず、一つ目は、**この出逢いを大切にしてほしい**ということです。美香保中学校での出逢いは、一生にただ一度限りです。長い人生の中で一瞬のことです。だからこそ、今この時を大切に人と接し、純粋に一生懸命生きてほしい、そう願っています。今日は出逢いの始まりです。あなたといたから今の私がここにいる。あなたといたからこの3年間がある。あなたと出逢えて良かった。美香保中学校で良かった。そんな出逢いをみんなで一緒に創り上げていきましょう。

二つ目は、**自分と他者を大切にしてほしい**ということです。これまでの人生を振り返ってみてください。命を授かってからというもの、あなたはたくさんの人に守られ支えられ、愛情をそそがれて今ここにいます。あなたの命にはたくさんの方の思いが詰まっているのです。かけがえのない存在である自分を大切にしてください。そして、周りにいる人たちも、あなたと同じように、たくさんの人に支えられ、愛情をそそがれて今ここにいます。あなたと同じように、かけがえのない存在です。他者を大切にしてください。

三つ目は、「**しなやかな強さ**」を育ててほしいということです。柳の木を思い浮かべてください。柳のように、いかなる強風が吹いても、しなやかに曲がる木は長持ちします。一方、強風が吹いても、曲がることをしない木は、ストレスに耐えかねて折れることもあります。

皆さんは、これから思春期という多感な時期を迎えます。中学校生活の中では、困難なことにぶつかったり、人間関係や進路のことで悩んだりすることがあると思います。そんなとき、それらに耐えかねて折れる木であってはいけません。しなやかに曲がり、それらに対応していく柳であってほしいのです。『しなやかな強さ』とはそういうものです。

また、そんなときは、そういった気持ちを自分一人の心に押し込めることなく、安心して打ち明けてください。辛いとき、困っているときに泣き言を言ったり、相談したりすることは何も恥ずかしいことはありません。家族も、友達もそして美香保中学校の先生方も必ずあなたの気持ちを受け止めてくれます。心の声を届けることも、「しなやかな強さ」の一つだと思います。

以上、三つの願いをお話させていただきましたが、自分や他者を大切に、しなやかな強さを発揮し、素敵な出逢いを創り上げていくためにも、皆さんに意識してほしい言葉があります。

それは、「ばらばらで一緒」です。

私たちは、みんなそれぞれ違います。外見も、性格も、考えていることも、そう、‘ばらばら’です。その‘ばらばら’を互いに認め合い、生かし合ってこそ、人と人は心でつながり、‘一緒’になることができると思います。私は、みんながみんなの中で自分らしく生きられるよう、「ばらばらで一緒」の学校を創りたいと考えています。「ばらばらで一緒」の学校づくりの主役は皆さん一人一人です。大いに期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様に申し上げます。これまで12年間大切に育ててこられたお子様をお預かりし、これより義務教育最終の三か年に入ります。中学生の3年間は、義務教育の仕上げの時期であり、長い人生の中でも、最も大きく成長する大切な時期です。

本校教職員一同、心をつちにして、お子さまの健全な心身の育成に資するよう、誠心誠意努力してまいります。

また、学校は地域に浮かぶ船です。その船がどこに向かっていくのか、学校、家庭、地域がしっかりと共有していくことが大切と考えています。本校の教育に保護者並びに御家族の皆様、地域の皆様の一層の御理解と御協力を重ねてお願い申し上げます、式辞といたします。

令和6年4月9日

札幌市立美香保中学校 校長 伊達 峰史